

緊急時の行動

すばやく要介護者の安全を確認し対応する

意識の異常
が見られる

意識がもうろうとして
いる場合は、肩を叩きながら
名前を呼びかける

声掛けに反応あるか
痛みの刺激に反応あるか
【症状は?】
目つき・白目・けいれん・
まひ・嘔吐・ろれつ・発熱・
冷や汗・口臭など

激しい頭痛・
胸痛・腹痛・
など

どこが痛いか・激しい痛みか
動かせるか・腫れはないか
を確認する

割れるような痛みか、
どの部分か
【症状は?】
けいれん・手足のしびれ・
嘔吐・ろれつ・めまい・
呼吸困難・冷感の有無・
チアノーゼ・冷や汗・
血圧の上昇/低下など

けいれん
している

ベッドから転落しないよう
ベッド柵をする。
柵は毛布やタオルで保護

声掛けに反応あるか
痛みの刺激に反応あるか
【症状は?】
意識障害・呼吸困難・頭痛・
発汗・失禁・嘔吐・外傷
の有無を確認する

◆バイタルをはかる

体温 (KT) 脈拍 (P) 血圧 (BP) 動脈血酸素飽和度 (SPO2...正常値95
~98。90未満は要注意)

症状によって 救急対応

呼吸の異常

が見られる

転倒・転落

体温が高い

呼吸状態の確認・気道確保

- 口腔内を観察 吐物、異物があれば除去
- 呼吸数(無呼吸、頻呼吸など)
- 呼吸パターン(努力呼吸など)
- 呼吸音・呼吸の様子などを観察し、苦しそうな場合は、できるだけ呼吸しやすい体位にする(上半身を少し起こすと呼吸が楽になる)



呼吸困難・停止の場合は
心臓マッサージをする

呼び掛け・意識の確認

- 痛む箇所はどこか
 - 出血は無いかな
 - 頭部は打ってないか
 - 不自然な歪みはないか
- 【症状は?】
けいれん・嘔吐・チアノーゼ・
血圧の上昇/低下・ぐったり
しているなど

痛みが激しい場合、腿の付け根を骨折していることが多い。痛みの具合を見ながら静かに動かしてみる。
痛みがある場合、またはその後腫れたり、血圧の低下がみられる場合は救急搬送の必要性がある。
頭を打った場合は、48時間は吐き気や痛みがないか注意が必要。

悪寒が無ければ

クーリング

- 悪寒がある場合は毛布などで保温
- 水分補給に気を付ける
- ◆ 約 37.5℃で 1点クーリング (頭か首)
- ◆ 37.5~38.0℃で 3点(首、片方脇、鼠径部)
- ◆ 38℃以上はロキソニン・カロナール)または坐薬を視野に入れる(頓服と坐薬の併用は6時間前後空ける)
- ◆ 悪寒が無くなればクーリングに移行
- ◆ 血圧が低すぎる時は、坐薬は中止する

- ◆ バイタルをはかる
 - ◆ チアノーゼ (唇や爪が紫がかって見えていないか?)
- SPO2 が 90~93% になると出やすい

症状によって 救急対応

その他の症状

◆吐き気、嘔吐

感染症予防のため、吐物を直接さわらないようにし、^{てあらい}手洗いを^{じゅうぶん}充分にすることも大切^{たいせつ}です。

◆吐血、喀血

横^{よこ}になって^{あんせい}安静にし、吐き気^{はきけ}があれば横^{よこむ}向きに寝^ねて楽^{てらく}に吐^はけるようにします。

救急車が来たら、こんなことを伝えてください

◎事故^{じこ}の状^{じょうきょう}況^{たいちょう}や体^わ調^きが悪^{わる}くなってから救急隊^{きゅうきゅうたい}が到^{とう}着^{ちゃく}するまでの様子^{ようす}や変化

◎おこなった^{おうきゅうてあて}応^{ない}急^{よう}手^{てい}当^{どう}の内容^{ないよう}

◎具^ぐ合^{あい}の悪^{わる}い方^{いかた}の情^{じょう}報^{ほう}

持^じ病^{びょう}、かか^かり^{かり}つ^つけ^けの病^{びょう}院^{いん}、普^ふ段^{だん}飲^のんで^のいる薬^{くすり}、医^い師^しの指^し示^じなど

その他 救急隊が聞くこと

- 誰^{だれ}か一^{いっ}緒^{しょ}にいま^{いま}すか？（頼^{たの}まれて通^{つう}報^{ほう}して^{して}いるか？）
- 呼^こ吸^{きゅう}はち^ちゃん^んとで^できて^{きて}いま^{いま}すか？（普^ふ段^{だん}どお^おりの呼^こ吸^{きゅう}か？）
- 冷^ひや汗^{あせ}をか^かいて^{いて}いま^{いま}せんか？
- 顔^か色^{いろ}は悪^{わる}くあ^あり^りま^ませんか？
- 普^ふ通^{つう}に話^はが^がで^でき^きま^ますか？